

証券アナリスト基礎講座 スタディ・ガイド

ー証券分析、証券投資の基本を学ぶー

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

The Securities Analysts Association of Japan

目次

はじめに	1
I. 講座の特色	2
1. 着実な理解を重視した講座構成	2
2. 効率的で分かりやすい学習を目指したテキスト	3
3. Web演習問題について	4
4. 「主な質問と回答」について	4
5. テキスト各章の概要	5
II. 修了試験	
1. 試験の形式	8
2. 合否判定基準	8
3. 修了試験受験可能期間	8
4. 合否通知	8
5. 修了証の発行	8
6. 受験料	8
7. その他	9

基礎教育委員会名簿と執筆分担

証券アナリスト通信教育講座へのお誘い

はじめに

この講座は、事業会社を含め金融実務に携わる社会人から、証券投資・分析に関心を持つ大学生や個人投資家まで、職業や男女を問わず幅広い層を対象に、証券投資・分析の基礎知識や考え方を効率的に学ぶ機会を提供することを目的として、2004年度より開講されました。

今般、最近の学習・教育ニーズの動向等を踏まえ、外国証券投資、デリバティブ等の解説を充実させ、個人投資家にとっても大切な投資信託や確定拠出年金の説明を増やすなど、テキストを全面的に改訂しました。

テキストは証券や金融に関する知識を前提とせず、一般的な経済常識と初歩的な数学の知識があれば十分に理解できるようファイナンス関連の基礎知識に重点を絞り、図表を多用する一方、数式は最小限にしています。

各章ごとの Web 演習問題を解くことで、その章の理解度をチェックできるほか、協会に寄せられた代表的な質問に対する回答をホームページに掲載しており、これらにより、理解をより確かなものにできるよう工夫されています。学習を通じ自信をつけて、是非、修了試験に挑戦して下さい。

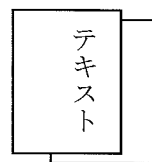
なお、この基礎講座のほか、「証券アナリスト通信教育講座」も開講しています。基礎講座には、同講座の中核科目である「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」(第1次レベル)の重要な部分、3割程度が取込んであります。「証券アナリスト通信教育講座」は証券アナリスト資格(CMA®)取得のための講座ですが、より深く学びたい方にはこちらの受講もお勧めします。

I. 講座の特色

1. 着実な理解を重視した講座構成

「証券アナリスト基礎講座」は、①テキストによる学習、②インターネットを利用した Web 演習問題による理解度の確認、③修了試験の受験と合格者への修了証の授与の3つがセットになった通信講座です。

また、疑問点の解消のため、基礎講座開講以来寄せられた主な質問と回答を WEB に掲載しています。さらに協会へ質問することもできます。



・独立した13章からなるコンパクトなテキスト(2分冊構成)。

…各章に設けた【本章のねらい】と【まとめ】で要点をつかみ、【コラム】で知識を広げ、【受講者への質問】の答えを考えることで理解が深まります。



・各章ごとの【WEB 演習問題】(四肢択一方式)で理解度をチェック。



・WEB の豊富な回答集(【主な質問と回答】)がテキストと演習問題の理解を助けます。



・全国都道府県100か所余でコンピュータによる90分間の修了試験を開催。

・合格者には「修了証」を授与。

2. 効率的でわかりやすい学習を目指したテキスト

(1) テキストの構成

テキストは、独立した全13章から構成されており、第1分冊と第2分冊の2冊に分かれています。第1章から順に読み進めていくことが自然ですが、章ごとに完結していますので、関心のある章から読み始めても構いません。

効率的に学習できるように、各章の冒頭に「本章のねらい」、章末に「まとめ」と「受講者への質問」を入れており、章ごとに確実な知識を身につけることができるようになっています。

また、煩雑な数式は本文から極力省き、文章をたどるだけで理解できるように工夫されています。

(2) テキストの内容と読み方

例えばあなたがファイナンスの現場で商品知識の基礎や金融商品そのもの特徴の再確認をしたいと思うときは、第2分冊の第6章(株式投資)、第7章(債券投資)、第8章(外国証券投資)、第9章(デリバティブ)をまず最初に読むことをお勧めします。

また、貯蓄から投資への流れのなかで、個人投資家の重みが増しつつありますが、この点については同じく第2分冊の第11章(個人投資家の資産運用)、第12章(確定拠出年金)、第13章(投資信託への投資)のパートが大変参考になるでしょう。

ファイナンスの理論面については、あまりの難解さに悩まれている方が多いのではないのでしょうか。基礎に立ち戻り、ファイナンスに関わるリターン(収益)やリスク、統計的な処理などの初歩的な考え方について頭の整理をした

い方には、第1分冊の第3章(証券投資の基礎概念)、第4章(ポートフォリオ理論)、第5章(資本資産評価モデル CAPM)の各章が大いに役立ちます。

3. Web 演習問題について

各章の学習を終えたところで、ホームページのWeb演習問題を解いて、自分の理解度を確かめて下さい。この問題の形式は修了試験と同じ四肢択一式です。

Web演習問題の解答は、1度しかできませんのでご注意ください。解答する際は解答ボタンをクリックしてください。その後、協会より、「解答と解説」および関連データをお送りします。解答した後はWeb演習問題の関連ページにアクセスできるようになります。

なお、演習問題への解答およびその結果が、修了試験の受験要件等に影響を及ぼすことはありません。

4. 「主な質問と回答」について

(1) 協会ホームページには、2004年度の基礎講座開講以来寄せられた質問を各章別に整理した「主な質問と回答」を掲載しています。学習を深めさらに理解を増すために、また用語集としてもご活用ください。

(2) 今後もテキストによる自学自習を補完するため、協会に寄せられた質問の中から代表的なものを選んで追加・整理していく予定です。上記回答集で疑問が解消しない場合には、協会へ質問をお寄せ下さい。

5. テキスト各章の概要

第1分冊

【第1章 経済と金融】

経済のメカニズムと企業の資金調達と証券投資の関係を概観します。

【第2章 証券市場】

株式、債券、投資信託などについて、それぞれの基本的な性格と制度的な枠組みや取引の仕組みを概観するとともに、投資に当たっての留意点、および市場動向を示す指数(インデックス)について解説します。

【第3章 証券投資の基礎概念】

証券投資を考える上でキーとなる概念を理解します。お金の将来価値(現在のお金が将来いくらになるか)、現在価値(将来のお金が今いくらなのか)は利子率に左右されます。将来受け取る金額が不確実な場合は、その期待値(平均値)を元に算出される期待リターンが交換レートとされます。こうした証券投資を考える上での基礎概念を学びます。

【第4章 ポートフォリオ理論】

ポートフォリオとは、投資対象となる証券の組合せのことで、どういう組合せが望ましいかは投資家によって異なります。証券投資の満足感(効用)は、そこから得られる期待リターンとリスクによって決定されますが、ではその投資家に最大の効用を与えるポートフォリオはどのようにして見つけたらよいのでしょうか。その考え方の筋道を解説します。

【第5章 資本資産評価モデル(CAPM)】

各証券には、①複数の証券への分散投資によって消せる「固有リスク」と、

②分散投資によっても消せない「市場リスク」の2つのリスクがあり、賢明な投資家は分散投資を行うことで固有リスクを取り除き、市場リスクのみを負うことで超過リターンを得る、というのがCAPMの考え方です。市場リスクの大きさを測るベータ(感応度)という概念についても学びます。

第2分冊

【第6章 株式投資】

株価を説明する理論をはじめ、企業利益と配当の関係、株式をめぐるリスク、株価の割高、割安を判断する投資尺度(PER、PBR、配当利回りなど)、ファンドと投資スタイル等について解説します。

【第7章 債券投資】

いろいろな債券の特徴と投資尺度としての各種利回りをはじめ、デュレーション、イールド・カーブといった重要な概念を踏まえつつ、金利と債券価格、投資期間との関係などを解説します。株式に転換できる転換社債やデリバティブが組み込まれた仕組債についても学習します。

【第8章 外国証券投資】

外国証券投資を通じた投資機会の活用と分散投資効果、為替リスクと為替ヘッジ、内外金利差、投資戦略、新興国投資など、外国証券を投資対象に加える上で理解しておくべき必須のポイントを解説します。

【第9章 デリバティブ】

デリバティブ(先物、オプション、スワップなど)は、その元となる商品の価格変動リスクを回避する手段として誕生しました。元となる資産(原資産)か

ら派生(derive)しているため、原資産の価格変動によりデリバティブの価格も変化します。原資産とはリスクとリターンの特徴が異なる資産であり、リスクヘッジや投機的手段として使われます。

【第10章 機関投資家による資産運用】

機関投資家による資産運用は、投下する資金の性格に応じ投資目標や投資期間を考慮しながら、自らのリスク許容度に適合した投資政策に基づいて遂行されます。様々な資産への配分を決定する資産配分(アセット・アロケーション)は投資政策の中核をなすプロセスです。

【第11章 個人投資家の資産運用】

個人による資産運用では、投資期間が有限で各個人のライフサイクルが投資の意思決定に大きく影響を及ぼします。個人投資家が資産運用の意思決定を行う際に留意すべきいくつかのポイントの中で、ライフサイクルと投資の関係、資産運用と税金の関係等について解説します。

【第12章 確定拠出年金】

制度の概要や資産運用に関わる問題、非課税の効果を論じるとともに、運用商品の選択方法や確定拠出年金の資産運用の実態等についても解説します。

【第13章 投資信託への投資】

個人の資産運用との関連も踏まえつつ、その運用手法の特徴や商品特性を解説します。また、投資信託商品の評価手法についても概要を検討するとともに、近年における商品性の多様化の流れを踏まえ、REITやヘッジ・ファンド、コモディティといったオルタナティブ投資の現況にも触れます。

II. 修了試験(随時受験できます)

1. 試験の形式

(1)試験時間は90分です。試験問題は40題、Web演習問題と同形式の四肢択一問題、1問3点です。

(2)コンピュータ試験で、全都道府県(100か所余り)で随時実施されており、受講開始後いつでも受験できます。いつ受験するかについては、ご自身の学習ペースに応じて決めることができます(早い方では受講開始後三月ほどで受験する方もいます)。

2. 合否判定基準

120点満点で、一定割合以上得点した者を合格者とします。

3. 修了試験受験可能期間

受講開始後、合格まで3年間受験できます。

4. 合否通知

試験会場で試験終了後にコンピュータ画面から合否結果を知ることができます。また、試験会場で書面の通知も受領できます。

5. 修了証の発行

合格者には当協会より受験の翌月、「修了証」が授与されます。

6. 受験料

(1)初回修了試験(受講開始後6ヵ月以内)の受験料は受講料に含まれていますので、受験料のお支払いは不要です。

(2)2回目以降または受講開始後6ヵ月経過後の受験料は1回当たり5,000円(消費税込み)です。受講開始後3年間は合格まで何回でも受験ができます。

受験申込手続の詳細は、協会ホームページ<http://www.saa.or.jp>の「講座・試験」画面⇒基礎講座をご覧ください。

7. その他

- (1) 受講料は上記6の受験料を含め15,000円(消費税込み)、学生割引12,000円、大口割引13,500円です。
- (2) 「証券アナリスト基礎講座」と11ページ記載の「証券アナリスト通信教育講座」は並行して受講することができます。
- (3) 基礎講座は、証券アナリスト通信教育講座(第1次レベル)の「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」の重要な部分、3割程度が取込んであります。基礎講座を修了した方が証券アナリスト通信教育講座(第1次レベル)の「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」を受講する場合には、同講座受講料が3,000円の割引となります。

上記内容は、2011年2月現在で記述してあります。受講料、受験料を含め、先行き予告なく変更することがあります。

基礎教育委員会名簿と執筆分担

2011年4月

公益社団法人 日本証券アナリスト協会

(敬称略・五十音順)

委員長	浅野 幸弘	横浜国立大学 教授 (担当 第1、2章)
委員	金崎 芳輔	東北大学 教授 (担当 第3～5章)
同	菅原 周一	みずほ年金研究所 研究理事(CMA) (担当 第6～9章)
同	藤林 宏	住友信託銀行 年金研究センター 主席研究員(CMA) (担当 第10～13章)

以上4名

(基礎教育委員会は、基礎講座のカリキュラムの策定、教材の作成、試験問題の作成・選定、試験の合否判定を所管しています)

【お問合せ先】

公益社団法人 日本証券アナリスト協会(教育担当)

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1

東京証券取引所5階

<http://www.saa.or.jp/>

E-mail: kiso@saa.or.jp

Tel: 03-3666-1511

証券アナリスト通信教育講座へのお誘い

基礎講座の履修を終え、見事に修了証を手にした受講生の皆様方には、次のステップとして「証券アナリスト通信教育講座」による証券アナリスト資格(CMA)取得のための教育プログラムが用意されています。

この制度は、証券分析業務に必要な専門的知識と分析力の習得を目的として体系的な学習を行い、講座終了後に実施される試験を通じて証券アナリストとしての専門水準を認定するものです。

現在、CMAは約24,000名に達しており、証券分析のプロフェッショナルとして、証券・金融界、企業の財務・IR部門などの分野で活躍しています。

講座及び試験は、第1次レベルと第2次レベルとに分れています。

①第1次レベルは「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」、「財務分析」、「経済」の3科目構成で(科目毎の受講・受験可)、3科目合格後第2次レベルに進みます。

②第2次レベルは、上記3科目に「職業倫理・行為基準」を加えた4科目で構成され、試験は4科目の総合試験となります。

③第2次レベルの試験に合格された方は、証券分析の実務経験を3年以上有する場合、日本証券アナリスト協会の検定会員(Chartered Member of the Securities Analysts Association of Japan、略称CMA®)の称号を得ることができます。

④CMAとして登録後は、CIIA(国際公認投資アナリスト)試験に挑戦できます。この資格は、世界の35の協会・連合会が協力して運営する国際資格です。